

観光社会資本の事例

テーマ	稚内のシンボル「稚内港北防波堤ドーム」
【施設の状況写真】	
	
<p>昭和11年、高さ約13m、半アーチ型の波よけに古代ローマ建築を思わせる太い円柱と回廊を持つ「北防波堤ドーム」が完成。</p>	<p>稚内から利尻島・礼文島へ向かうフェリーターミナル横にある「北防波堤ドーム」。稚内のシンボルとして市民や観光客に親しまれています。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>北防波堤ドームでは、コンサート等の市民参加イベントが行われ、市民や観光客を楽しませています。</p>	<p>北防波堤ドーム内で行われる物産展。ドームは多くの市民や観光客で賑わいます。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>昭和11年に完成した稚内港北防波堤ドームは、稚内が誇る歴史的遺産として市民に親しまれるとともに、毎年たくさんの観光客が訪れています。</p>	
<p>北防波堤ドームは全天候型イベント施設でもあり、毎年多彩なイベントが行われています。ドームの音響効果を活用したコンサート、稚内の新鮮な海の幸や山の幸を提供する物産展、冬にはスノーキャンドルによりドームを幻想的な世界で彩るイベントなど、市民や観光客が参加できるイベントスペースとして活用されています。</p>	

テーマ	稚内のシンボル「稚内港北防波堤ドーム」
【社会資本の基礎データ】	
名称	稚内港北防波堤ドーム
所在地	稚内市開運町1丁目
事業名	港湾整備事業
事業主体	北海道開発局
事業期間	昭和6年～昭和11年 (昭和53年～昭和56年(改修)、平成11年～14年(耐震補強))
【社会資本の役割・効果】	
<p>定期船乗降客の安全確保</p> <p>昭和元年、北防波堤が完成。当時、稚内～大泊(現在のサハリンコルサコフ)航路の発着場として利用されていましたが、強い風が吹くと波が防波堤を乗り越えて船の発着場まで飛び、乗船客の安全を脅かしていました。昭和11年、高さ約13m、半アーチ型の波よけに古代ローマ建築を思わせる太い円柱と回廊を持つ北防波堤ドームの整備により、乗船客の安全が確保されました。</p> <p>歴史的土木遺産の保存</p> <p>昭和50年代に入ると、北防波堤は老朽化が進み、利用上危険な状態になりました。地元からの強い保存要請にこたえ、原型どおりの改修復元を行い、新しいドームは稚内のシンボルとして市民に親しまれるようになりました。</p>	
【位置図】	
【関連ホームページ】 観光協会 http://www.welcome.wakkanai.hokkaido.jp/asobu/index.html 稚内市・観光施設 http://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/main/kanko/point/pnt-kitabou.htm	